

当面の技術対策（畜産編）

平成23年10月15日

ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

家畜糞尿の活用

ふん尿の散布に当っては、ほ場に放置することなく、できる限り速やかに利用を図ることが必要です。また、散布時期に関しては肥効と環境汚染の観点から、形態別に以下のとおり推奨されています。

形態	ほ場区分	散布時期（秋施用）	備考
堆肥	草地	10月末まで	土壌凍結・積雪時期は厳禁
	畑地	10月中旬以降、土壌凍結または降雪前	窒素の流亡を避けるため、地温が低下してから散布、その後すみやかに土壌と混和
スラリー尿	草地	10月末まで	土壌凍結・積雪時期は厳禁
	畑地	裸地状態で越冬する農地に、スラリーや尿など液状のふん尿を施用してはならない	地下への窒素流亡の危険性が高い。また肥効も低い。よって秋施用はせず、春施用に限定する

乳牛飼養管理

- 1 公共牧場から下牧した牛は一時、放牧地やパドックで飼養して急激な環境変化を回避し、十分な個体観察を行いながら徐々に舎飼いに移行しましょう。また、伝染性の皮膚病にかかっている場合は、完治するまで別飼いを行いましょう。
- 2 暑熱の影響が懸念されます。観察を強化し、乳牛の体調管理に気を配りましょう。乳房炎予防の観点から、乾乳・分娩牛は飼養環境の衛生に留意しましょう。暑熱ストレスによる体力低下等の影響で、発情兆候も微弱になりやすいため十分な観察時間を確保しましょう。
- 3 パドックや畜舎周辺が泥濘化しやすい時期です。またサルモネラ症等伝染病の発生も多くなる時期です。環境整備に努めるとともに衛生管理対策を徹底しましょう。

サルモネラ症の発生防止対策

- | |
|---|
| 1. サルモネラの農場内持ち込みを防ぐ管理 |
| 外来者や外来車両の入場規制 靴やタイヤの消毒 |
| 野生動物の牛舎内への侵入防止 |
| 2. 感染機会を減らす管理 |
| 水槽・ウォーターカップの洗浄、飼槽清掃の励行 |
| 飼槽（給餌）作業時の履物衛生 |
| 糞尿動線と給餌動線が交差しないように注意し、交差する場合は衛生に留意 |
| 3. ルーメン機能を正常に維持する飼養管理 |
| 飼料摂取に制限が加わるような管理を改良 |
| ルーメンアシドーシスの防止 腐敗、劣化飼料の給与を避ける |